



Title	世阿弥以降の能舞台様式の変化と『序破急（序破急五段）』の関係性の研究
Author(s)	松永, 直美
Citation	大阪大学, 2017, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/61737
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

氏名 (松 永 直 美)

論文題名 世阿弥以降の能舞台様式の変化と『序破急（序破急五段）』の関係性の研究

論文内容の要旨

本論文は、世阿弥以降の能舞台様式変化の要因を、世阿弥が「能の文法」として確立した《序破急（序破急五段）》を計量的分析に用い、「能舞台」：本舞台（序域・破域・急域）および橋掛り（序所・破所・急所）と囃子・舞との関係性を3DCGおよび統計学の手法を用いて明らかにしようとするものである。

日本の重要無形文化財であり、ユネスコの「人類の口承及び無形遺産の傑作」として認定されている「能」は、舞（舞踏）、囃子（楽器演奏）、謡い（声楽）から構成される。概して、建築様式の変化に関する研究は、建物の遺構・現存する建物・歴史的文献によるアプローチが中心である。本論文では、従来の方法とは異なり「能」を構成する舞踏や楽器演奏に着目し、能の表現の原理ともいわれる《序破急》が舞台様式の変化に深く関わっているとの立場から研究を行った。

第1章は、研究の背景として、「能舞台」構造の特殊性と能役者「世阿弥」時代からの能舞台の変遷および研究の新規性と目的を述べた。本研究の新規性は、能の舞踏や演劇を構成する《序破急（序破急五段）》に着目し、3DCGと統計学の手法を用い建築様式の変化の要因を探る、という点にある。

第2章は、《序破急》の抽出方法とVRMLによる能舞台の特殊性について、歌舞伎舞台との比較検証について記した。

第3章は、《序破急》が能舞台橋掛り様式の変化の要因のひとつであることを明らかにするため、橋掛りと《序破急》の関連性をITを用いた分析方法について述べた。「九段階律動性のグラフ」を用い、音の抽出データが《序破急（序破急五段）》の特徴を表しているかの検証方法と結果について記した。

第4章は、丹波篠山春日神社と国立能楽堂能舞台をモデルとし、《序破急五段（序破急五段）》と「能舞台」：本舞台（序域・破域・急域）・橋掛り（序所・破所・急所）と囃子・舞の関係性を3DCGおよび統計学の手法を用い検証を行った。

第5章は、結論と今後の課題を記した。

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 (松 永 直 美)			
論文審査担当者	(職)	氏 名	
	主 査	教授	矢吹 信喜
	副 査	教授	澤木 昌典
	副 査	准教授	福田 知弘
論文審査の結果の要旨			
<p>本論文は、世阿弥以降の能舞台様式変化の要因を、世阿弥が「能の文法」として確立した《序破急（序破急五段）》を計量的分析に用い、「能舞台」：本舞台（序域・破域・急域）および橋掛り（序所・破所・急所）と囃子・舞との関係性を 3DCG および統計学の手法を用いて明らかにしようとしている。</p> <p>日本の重要無形文化財であり、ユネスコの「人類の口承及び無形遺産の傑作」として認定されている「能」は、舞（舞踏）、囃子（楽器演奏）、謡い（声楽）から構成される。概して、建築様式の変化に関する研究は、建物の遺構・現存する建物・歴史的文献によるアプローチが中心である。本論文では、従来の方法とは異なり「能」を構成する舞踏や楽器演奏に着目し、能の表現の原理ともいわれる《序破急》が舞台様式の変化に深く関わっているとの立場から研究を行っている。</p> <p>第 1 章は、研究の背景として、「能舞台」構造の特殊性と能役者「世阿弥」時代からの能舞台の変遷および研究の新規性と目的を述べている。本研究の新規性は、能の舞踏や演劇を構成する《序破急（序破急五段）》に着目し、3DCG と統計学の手法を用い建築様式の変化の要因を探る、という点にある。</p> <p>第 2 章は、《序破急》の抽出方法と VRML による能舞台の特殊性について、歌舞伎舞台との比較検証について記している。</p> <p>第 3 章は、《序破急》が能舞台橋掛り様式の変化の要因のひとつであることを明らかにするため、橋掛りと《序破急》の関連性を IT を用いた分析方法について述べている。「九段階律動性のグラフ」を用い、音の抽出データが《序破急（序破急五段）》の特徴を表しているかの検証方法と結果について記している。</p> <p>第 4 章は、丹波篠山春日神社と国立能楽堂能舞台をモデルとし、《序破急五段（序破急五段）》と「能舞台」：本舞台（序域・破域・急域）・橋掛り（序所・破所・急所）と囃子・舞の関係性を 3DCG および統計学の手法を用い検証を行っている。</p> <p>第 5 章は、結論と今後の課題を記している。</p> <p>以上のように、本論文は、環境デザイン分野、特に能舞台の様式の変化の解明に大いに貢献する成果を提示している。</p> <p>よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。</p>			